壱岐南校区自治協議会だより

みなみかぜ

第109号

2014年(平成26年)12月15日発行

発　行　者：壱岐南校区自治協議会
発行責任者：本　庄　敏　雄
〒819-0032
福岡市西区戸切2-18-20
(壱岐南公民館内)☎811-0336
http://blog.zaq.ne.jp/ikiminami/

ー数字で見る壱岐南ー
《災害時避難所運営訓練参加者数》

野方南台	6	藤ヶ丘	35
野方台団地	39	萩ヶ丘	24
野方団地	29	壱岐団地南	42
野方南1区	12	橋本ニュータウン	30
野方南2区	30	戸切町	52
野方南3区	36	橋本町	30
野方南4区	41	**合　計**	**406**

災害時避難所運営訓練に406人

11月30日「福岡市西部海底でM7の地震が発生。校区では震度6弱で家屋や一部道路が損壊。電気・水道・都市ガスの供給停止中。自治協議会は壱岐南小学校体育館を避難場所に指定し避難住民の受入態勢をとる」という想定のもと災害時避難所運営訓練を行い、406人が参加しました。訓練には西区役所総務課、西消防署壱岐出張所、西消防団壱岐分団にご協力いただきました。また、マナハウスの入居者3人も車いすで参加されました。

自治会ごとにまとまって避難してきた住民は、安否確認のための受付をすませてから体育館内へ移動しました。

まず「安心できる避難所づくり～男女共同参画の視点を避難所運営に」というDVDを見ました。阪神淡路大震災や東日本大震災では、乳幼児を抱えた女性や家族には男性とは違った困難がありました。高齢者・障がい者など多様な人にとって安心できる避難所づくりをめざした内容でした。

毛布で作った簡易タンカ

その後、けがの応急処置・簡易タンカの作り方・意識不明者への対応の3グループに分かれ、実際に経験しました。

西区総務課防災・安全安心係長の原秀則さんは「災害はいつ起こるかわかりません。今日のような疑似体験を通じて災害への備えをしていただきたい。大災害のときには公の助けをあてにせず、まず自分で考え判断し行動することが大切です」と話されました。

会場には緊急時持ち出し必需品も展示され、多くの人が興味深そうに見ていました。

みんなでつくる文化祭に

第9回いきみなみ文化祭を、11月8日・9日に壱岐南公民館、戸切人権のまちづくり館で行いました。

今年も公民館サークル・まちづくり館サークルだけでなく、地域からもたくさんの方が出演、出展されました。

文化祭は7月9日に企画会議を開き、いきみないと祭りやいきみなみ体育祭の合間をぬって準備にかかりました。今年は各自治会選出の文化振興委員、公民館サークル代表にも企画会議に参加してもらい「みんなでつくる文化祭」をめざしました。

成果のほどはまだよくわかりませんが、今後も「文化の香りあふれる壱岐南」をめざして文化振興委員会を設立したいと考えています。

THE・△座でジェンダーを学ぶ

男女共同参画推進会議主催の研修会「THE・△座」を、11月5日に壱岐南公民館で開催しました。これには、推進会議委員をはじめ自治会長や諸団体の代表等39人の参加がありました。「寸劇で考えるジェンダーと男女同権」というテーマで、寸劇を見て話し合いをしました。

演じたのはアミカス寸劇隊の3人。内容は、自治会総会後の懇親会の準備を頼まれた3人の女性が、「私たちだけが準備するのっておかしいんじゃない？」と自治会長に話しに行きます。自治会長は「男はいつもあいさつとか前に出ることが多いからその分女性陣は裏でしっかり働いてほしい。それで全体がうまくいっている」と、とりあってくれません。さあどうしましょう…というもの。

なお、自治会長役は男性委員が演じました。

話し合いの柱は①なぜ女性は料理担当ときまっているのか②男性が前に出てあいさつをすることが多いのはなぜか③自治会長のせりふを聞いてどう思ったか④女性たちは会長にどういえばよかったのかの4つでした。

6グループに分かれ、さっそく活発な話し合いが行われました。グループごとの発表で共通していたのは、「今までの慣習」ということでした。

特に理由があって料理＝女性、あいさつ＝男性と決まっているわけではありません。にもかかわらず「これまでそうだったから」と、いつのまにかこの仕事は男性（または女性）と思いこんだり、決めつけたりしていることにあらためて気がつきました。

寸劇隊の横田文子さんは「それがジェンダーです。性別にかかわらず、やれる人がやれることをして、お互いに助け合ってこそ住みよいまちになるのではないでしょうか」と結ばれました。

（男女共同参画推進会議）

◎壱岐南小で〝昔の遊び〟◎

今年も「飛んだ、飛んだ。竹トンボが…」かわいい1年生の歓声が壱岐南小学校体育館に響く。これは11月14日に行われた〝昔の遊び〟でのひとこま。老人クラブ連合会の面々が先生役となり、めんこ・お手玉・こま回し・あやとりなどをていねいに教えた（＝写真）

高田浩平校長は「毎年老人クラブのご協力で、生きた教育をやっていただき感謝しています」とのこと。

（老人クラブ連合会）

❖プロムナード・いきみなみ❖

まちづくり協議会の活動の一環として壱岐南小学校に外花壇が設置されてから3年になります。10月、この花壇に「花壇プロムナード・いきみなみ」（代表・執行佳子さん）という名前がつきました。

これまでは青パト隊の皆さんがパトロールの合間に散水や除草を行っていましたが、それに加えて10月からは毎月1回、プロムナードの皆さんが手入れを行っています。

「福岡市緑のまちづくり協会」からの助成金を得て散水栓も整備されました。

皆さん、花壇を可愛がってください。

グラウンドゴルフ大会
―壱岐団地南―

11月29日壱岐団地公園で「壱岐団地南自治会主催グラウンドゴルフ大会」を開催しました。参加者は36人で、日頃の練習の成果を競い合いながら、好プレーあり、珍プレーありの笑顔の絶えないひとときをすごしました。

優勝は萩原幹也さん、2位は今村糺さん、3位は大倉郁夫さんでした。（＝写真）

（通信員　岡村浩次）

往還往来

「人生の楽園」という番組がある。定年または早期退職して、昔年の思いを果たそうと田舎暮らしを始めたり、趣味の工房を開き、老後を送るというものである▼最近はソバ屋だとかパン工房などの脱サラ新規開店？ものが多く、人生の楽園とは言えないものが多い▼60代同期が集まれば、年金と病気と孫の話に尽きる。年金の目減りが当たり前の時代、有り余る時間の過ごし方が人生の楽園にあるかも、と思い視聴してきた。しかし、転居や新規事業を始めようとは思わない▼筆者は、老後のサンデー毎日に備えて趣味の分野を蓄積してきた。結婚してすぐ「プラモデル」を始め、子どもたちは塗料のシンナーの臭いの中で育った▼現在、手つかずの飛行機のプラモデルだけで1千箱以上が積み上げられている。寿命尽きるまで到底作り終えないだろう。今は何時間でも一人で過ごせる。妻がご飯ですよと声をかける。手先と視力と少しの頭を使う老後のリハビリである。（濱）

これからの主な行事

○12月21日(日)
　インディアカ大会
　年末地域ぐるみ清掃
○1月10日(土)
　自治協議会新春のつどい
○1月20日(火)
　国民保護共同実働訓練
　橋本駅他

支援と水の大切さを学んだ視察研修
「抱僕館」と「まみずピア」

今年度の理事・運営委員視察研修で、11月18日に東区にある無料定額宿泊施設「抱樸館福岡」と、海の中道奈多海水淡水化センター「まみずピア」を訪問しました。

「抱僕館」は「ほうぼくかん」と読み、社会福祉法人グリーンコープが運営するホームレス・生活困窮者の自立支援施設です。２０１０年に開所し、現在までの総利用者数は７００人を超えています。

定員は81名で入居期間は原則６ヶ月。住居・健康の確保と就労・自立支援のためのサポートを行い、退所後も支援を続けています。

職員の瀬山さんから説明を受けた後、入居者と同じ食堂で同じメニューの昼食をいただきました。その後、館内見学と、入居者のご厚意で居室も見せていただきました。

「ハウスレス状態（物理的困窮）からの脱出に加え、人と人との関係を失うホームレス（関係的困窮）の解決」に取り組む抱僕館の理念に、物心両面の支援の大切さを学びました。

次に訪れた「まみずピア」は、渇水の苦い経験や、使用する水道用水の約３分の２を筑後川に依存している福岡市の自助努力の一つとして２００５年に建設されました。

６００メートル沖の玄界灘から取り入れた海水を、真水は通すが海水は通さないという特殊な膜を利用して淡水化しています。１日最大５万㎥もの淡水を生産して、水道水と混ぜて東区・博多区等に供給しています。

参加者全員で、水道水と生産された淡水を飲み比べ、どちらが淡水かを聞いてみましたが、正解者は約半数でした。

当たり前のように使っている水も、地球環境の変化で使えなくなるときが来るかもしれない、そんな思いもした「まみずピア」での研修でした。

（いきみなみ人権尊重推進協議会）

おめでとう壱岐丘中30年

11月15日壱岐丘中学校で創立30周年記念行事、式典・祝賀会が開かれました。

記念行事は生徒たちによるもちつきでした。第2代ＰＴＡ会長の吉岡勝人さんから寄付された１２０kgのもち米をつき上げ、記念品として各家庭、来賓に配られました。

できあがった紅白もち

式典・祝賀会には約１００人の参加があり、旧交を温め合うとともに、現在の学校の様子を紹介したＤＶＤを鑑賞しました。

祝賀会の最後には壱岐丘中学校のますますの発展を願って校歌を合唱しました。とても寒い日でしたが、心は暖かくなりました。

心をひとつに校歌斉唱

みちしるべ

ヘイトスピーチをご存知ですか？

「21世紀」は、人権・環境・平和がキーワードの世紀といわれてスタートし、早くも14年が過ぎようとしています。しかし、世界各地で紛争・戦争が続発しています。

また、地球温暖化をはじめとして環境はますます悪化し、将来に暗い影を落としています。

人権については、未だに一人ひとりの人権が尊重される社会の実現にはほど遠いものがあります。戦争は最大の人権侵害と言われていますが、戦争に限らず私たちの社会には様々な人権に関わる問題があります。

皆さんは「ヘイトスピーチ」をご存知ですか？近頃ニュースでも取り上げられています。これは「○○人は日本からたたき出せ！」「保健所で処分しろ！」と言った憎悪に基づく差別的な言動のことで、数年前から急増し、東京や関西などで大きな問題になっています。福岡でも同様の街頭活動が行われたこともあります。

日本における「ヘイトスピーチ」は国際的にも問題視され、国連の人権委員会は７月、このような人種差別を助長する行為の禁止を勧告しました。また、８月29日には国連の人種差別撤廃委員会が、異なる人種や少数民族に対する差別をあおる「ヘイトスピーチ」を行った個人や団体に対して「捜査を行い、必要な場合には起訴すべきだ」と日本政府に対して勧告しました。

あわせて、インターネットを含むメディアでの「ヘイトスピーチ」についても適切な処置をとることを要請し、人種差別の禁止に向けて「特定または包括的な法整備」の実現も求めています。

両委員会の勧告に強制力はありませんが、国連が「ヘイトスピーチ」への厳しい対応を相次いで求めたことで、日本政府は早期の対応を迫られています。これらのことを受けて、国会でもこの問題が取り上げられ「人権尊重」との関わりなども議論されています。当然のことながら「差別的憎悪表現」に表現の自由があるとは思えません。

私たちは歴史観や文化の違いも含めて「共に生きる地球人」としてお互いを理解し、すべての人の人権が尊重される社会を創っていきたいものです。

（いきみなみ人権尊重推進協議会）

第一回福岡マラソン ラン イート ラン

雨は嫌いではないけれど、痛いほど頬打つ雨は嫌いだな…、と思いながらスタートした福岡マラソン。私の今回のテーマは「出されたものはすべていただく」。

たくさんの応援に見送られて天神を出発。ドームの前を走り、小戸を駆け抜ける。今津湾からのシーカヤックの応援に手を振って「ありがとう」と大声で応える。

今宿での最初のフードエイド、チョコレート入りのマシュマロを食べる。今津運動公園の牧のうどん、大原海水浴場の手前ではぜんざい。その後も、チロリアン・おまんじゅう・トマト・梨・クリームパンなど出されたものはすべておいしくいただきました。

タイムは４時間３分57秒。福岡と糸島のまちを愛でながら、名物を堪能しながら、そして何より、沿道の応援の皆さんや、雨の中を長時間ボランティアしていただいた皆さんに支えられながら走った福岡マラソン。楽しくおいしいマラソンでした。出場できて幸せでした。本当にありがとうございました。

（平山　崇）

FUKUOKA MARATHON 2014

◆いきみなみ文壇◆

秋場所の　跳ねて力士の
博多去る
年の瀬や　床屋のハサミ
リズミカル

（橋本ニュータウン　福田　萬三）

子どものひろば

優良子ども会活動の表彰式

壱岐団地南子ども会が表彰されました、おめでとうございます

西区子ども会文化祭で
「もみじ・RPG・ひまわりの約束」を合唱しました。

「もみじ」の合唱の様子、感動をありがとう!!

編集後記

早いものでもう12月。これまでの自治協議会の活動をふり返ると、校区３大行事のひとつ「いきみないと祭り」では、普段は地域行事に参加できにくい現役世代の男性の協力を得ることができました。

また「いきみなみ体育祭」では、小学校ＰＴＡのお助け隊や多数の中学生の協力があり、大変助かりました。

自治協議会の行事は、あたりまえのことながら会長が一人で頑張ってできるものではありません。役員・委員をはじめたくさんの方の協力が必要です。そしてそれを継承していかなければなりません。

安心・安全に暮らせる壱岐南校区をめざして若い世代の地域デビューを待っています。